



令和2年度 尼崎市立武庫の里小学校の学校教育について

梅雨の最中、大雨被害のニュースで心痛めるこの頃ですが、校内ではセミの鳴き声が響き渡り、梅雨明けも間近かと思わされます。藤井聡太7段の棋聖タイトル獲得の明るいニュースが飛び込んできました。希望に向かう光かと思いたいところです。

本校の子どもたちも藤井7段に負けず、日々の学校生活を元気に和やかに送っています。授業も落ち着いて受けており、清掃も校内の隅々まで行き届き、整理整頓ができていることを嬉しく頼もしく見えています。

さて、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、授業の実施や行事計画、指導計画の変更を余儀なくされ、見通しのもてない中での教育活動となっています。「ピンチをチャンスに」と、職員は知恵と工夫を凝らしながら、子どもたちを育もうと、一致協力して進んでおります。至らない点多々あるかと存じますが、保護者の皆様や地域の皆様には、このような中、ご理解ご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

そこで、まだお知らせできていなかった本来の今年度の学校教育目標を、以下のとおりお知らせします。新型コロナウイルス対応の内容にはしておりませんので、思うようにできないこともあります。この柱は常に心に携え続け、教育活動を進めてまいります。

なお、文中の「MIM※」については、本校が昨年度より市教委のモデル校として学力向上の取組の一環で取り入れている手立てです。解説を後述させていただいております。

令和2年度 尼崎市立武庫の里小学校 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
～「げんき・ゆうき・ほんき」で未来に生きる力を伸ばす～

(1) めざす児童像

- さ…さわやかな挨拶のできる子（主体性と豊かな情操）
- と…ともだちと仲よくできる優しい子（友愛とコミュニケーション力）
- つ…つよく最後までやりぬく子（健康な体とねばり強い意志）
- こ…こころ開き話し合い考える子（確かな知性と表現力）

(2) めざす学校像

- ア あいさつや話し合いがよくできる 明るい学校
- イ 心をこめた清掃の行き届く 美しい学校

- ウ だれもが認められ伸びていく 安心で楽しい学校
- エ 思いやりをもって感謝の心があふれる 温かい学校

本年度努力事項

- (1) 日常活動での主体性を大切にし、思いやりを持って考え行動できる心を育む
 - ・進んであいさつができる児童の育成（進んで目を見て相手に気持ちを伝えるあいさつ）
 - ・思いやりを持って場と心を清める「みつけそうじ」の清掃活動と安全の徹底
 - ・「さとっこ」の縦割り活動の充実
- (2) 一人ひとりの学習意欲を育て、未来に生きる学力を向上させる
 - ・校内研究と校内研修を中心とした教師の授業力の向上（校内研究、若手教員校内研修等）
 - ・一人ひとりが安心して学べる学級づくりと、学力向上の実践
 - ・帯学習、放課後学習、独自学習（中学年以上）、自主学習、MIM※の実践とふりかえり
- (3) 高い人権感覚をもち「チーム武庫の里」の連携で全ての子どもを守る
 - ・校内での報告連絡相談の徹底による、迅速な対応と子どもを主役にした連携
 - ・家庭と専門機関地域との迅速な連携による、組織（チーム）間の信頼関係の構築
 - ・いじめや不登校、SNS等のトラブル、ネグレクトの未然防止、早期発見、早期対応
 - ・校内研修や出前授業の積極的な実施
- (4) 子どもの安心安全につながる地域に開かれた学校づくりを推進する
 - ・地域学校協働活動（防災行事や地域清掃等）を通じた多世代に渡る安心や信頼の輪の拡充
 - ・感謝の心を育み、関わってくださる人へ自分の言葉で感謝を伝える機会づくり
 - ・小中連携、幼保小連携の機会活用による出会いの広がりや授業交流の推進
 - ・気持ちのよいあいさつの地域実践を通して、学校教育活動への理解と協力を得る

MIM（多層指導モデル）について

本校では、学習の基板となる言語能力の育成の手立てとして、主に1年生の「こくご」の読みの指導において、多層指導モデルMIMを導入しています。多層指導モデルMIMでは、子ども達が特につまずきやすい「特殊音節」（促音、長音等）に焦点をあてた指導をしていきます。毎月、子どもたちの状況を記録し、詳細に把握することで、言葉の習得のつまずきを早期に発見し、早期に適切な支援を実施することが可能となります。

言葉や文をすらすらと流暢に読む力をつけていくことが、あらゆる教科や生活に楽しく向き合うための大きな助けになります。多層指導モデルMIMの活用により、一人ひとりの子どもに効果的な指導を提供していけるよう、学校として取り組んでまいります。

具体的には、主に国語科の中で、ことばに動作をつけて、体で覚えていきます。特殊音節とは、「(小さい)っ」と詰まる音や、「きゃ、ちょ」といったねじれた音、「おかあさん、おとうさん」といった伸ばす音の区別を、手をひねったり腕を下げたりして覚えます。その動作により、ひらがなやカタカナの言葉を詰まることなく正しく読んだり書き取ったりする力がついていきます。

月1回、MIM-PMというテストをしますが（成績には入りません）子どもたちはゲーム感覚で楽しんでいきます。今年度も低学年を中心に続け、指導に生かしてまいります。